

風水害・土砂災害に備えよう ～日頃から気象情報に注意しよう～



平成24年5月 旗川の増水



平成23年9月 秋山地区で発生した台風による土砂災害

日本列島には、毎年、10数個の台風が接近・上陸し、強風と大雨をもたらします。

また、近年、「ゲリラ豪雨」と呼ばれる局地的大雨も増え、それによる土砂災害も増えています。

日頃から気象庁や自治体などが発表する気象情報などに関心を持ち、風雨が強まってきたときには確実にチェックする習慣をつけましょう。

雨風が強まってきたら、家の外の飛ばされそうな物、浸水などで流されそうな物をしまい、窓ガラスの破損に備え、シャッターやカーテンを閉めましょう。

雨量や河川の水位や土砂災害に関する情報は、下記のホームページなどで確認できます。

宇都宮地方気象台ホームページ <http://www.jma-net.go.jp/utsunomiya/>

- ・気象警報、土砂災害警戒情報の発表状況など
- ・レーダー・ナウキャスト（1km四方での降水強度分布状況と1時間先までの予測降水強度分布など）
- ・台風情報（台風の位置、中心気圧などの実況や予想など）

栃木県ホームページ

○とちぎリアルタイム雨量河川水位観測情報：<http://www.dif.pref.tochigi.lg.jp/>

（県内の雨量観測所の降雨状況、水位観測所での水位状況など）

○とちぎ土砂災害警戒情報：<http://www.dif.pref.tochigi.lg.jp/dosya/login.asp>

（土砂災害の危険度情報など）

1時間の雨量で想定される影響は下記のとおりです。

1時間雨量	予報用語	想定される影響
10～20mm	やや強い雨	長く続くときは注意が必要。
20～30mm	強い雨	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。
30～50mm	激しい雨	道路が川のようになる。山崩れ、がけ崩れが起きやすくなる。
50～80mm	非常に激しい雨	マンホールから水が噴出。土石流が起こりやすい。
80mm以上	猛烈な雨	大規模な災害が発生する恐れが強い。厳重な警戒が必要。

近年、猛烈な雨が降る機会も出てきています。事前に側溝などを綺麗にしておくなど、対策をお願いします。



気象庁が発表する、佐野市における大雨に関する注意報・警報などの発表基準（8月現在）は下記のとおりです。

種類		発表の基準	
注意報	大雨	雨量基準	1時間雨量 40mm
		土壌雨量指数基準	7.5
	洪水	雨量基準	1時間雨量 40mm
		流域雨量指数基準	旗川流域＝1.2、彦間川流域＝1.3、矢場川流域＝1.2
		複合基準	平坦地：1時間雨量 20mm かつ流域雨量指数 渡良瀬川流域＝4.1
指定河川洪水予報による基準	秋山川（大橋町） 渡良瀬川下流部（足利市）		
警報	大雨（浸水害）	雨量基準	1時間雨量 80mm
	大雨（土砂災害）	土壌雨量指数基準	12.6
	洪水	雨量基準	1時間雨量 80mm
		流域雨量指数基準	旗川流域＝2.3、彦間川流域＝1.6、矢場川流域＝1.5
		複合基準	平坦地：1時間雨量 30mm かつ流域雨量指数 渡良瀬川流域＝4.1
指定河川洪水予報による基準	秋山川（大橋町） 渡良瀬川下流部（足利市）		
記録的短時間大雨情報	雨量基準	1時間雨量 110mm	

※特に警報、記録的短時間大雨情報が出た際はご注意ください

地域で防災・減災に取り組もう ～地域での助け合い～

大災害が発生したとき、交通機関の寸断や、同時に多発する火災などにより、消防や警察などの防災機関が十分に対応できなくなることが考えられます。そんなときに力を発揮するのが「地域ぐるみの協力体制」です。

地域の人びとが自発的に防災活動を行う組織を「自主防災組織」といいます。日頃から住んでいる地域の防災組織の情報などに耳を傾け、いざというときの活動に参加できるような心構えをしておきましょう。市では、全町会に「自主防災組織」をつくっていただくことを目標にしています。

【自主防災組織の役割】

- 平常時（災害に備えるための活動）
 - ・地域内の安全点検
 - ・防災知識の普及や啓発
 - ・防災訓練の実施
- 災害時（人命を守り被害の拡大を防ぐ活動）
 - ・初期消火
 - ・避難誘導
 - ・救出や救助
 - ・情報の収集や伝達
 - ・避難所の管理や運営



平成25年12月 中町会の防災訓練

■ 問合せ＝危機管理課 ☎(20)3056

